

戦後の昭和歌謡 について《4》

山形 俊男

(昭和39年機械科卒)



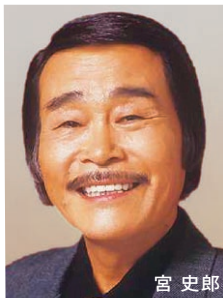
※昨年号の続き

● 歴史を彩った名曲の秘話

(15)《女のみち》 歌【宮 史郎とびんからトリオ】 昭和47年

宮史郎作詞、並木ひろし作曲の「女のみち」は、関西で活躍していたお笑いグループびんからトリオが、自作自演して大ヒットした曲である。お笑いだけでは売れない。舞台の繋ぎ用にとコンビ結成十周年記念の宣伝用に地域限定版でコロンビアに300枚自主制作したレコードだった。

昭和40年代後半に入り、流行歌の世界が演歌からロック、ニューミュージックへと移行する時代に、自主制作とは言え、「演歌の女心」をお笑いグループがダミ声で歌うと言うのは、それこそお笑い以外の何ものでもなかった。制作数300枚だがびんからトリオは資金回収のため売り捌(さば)かなくてはならない。四国の各レコード店にPRを兼ねて、レコードを10枚程置いて貰う行動に出た。移動手段は「ドン行列車」で、「握り飯」ひとつの行脚だった。帰途に立ち寄った各レコード店



宮 史郎

を回ると、レコードは軒並みに売れ切れ補充品はないかと訊かれた。この現象をプロダクション側に伝え、そこは商売のプロ、直ぐにコロンビアに連絡して全国版に切り替え発売開始。「女のみち」が姫路辺りの有線放送で流されると、俄然、評判になりリクエストが殺到した。

当初コロンビア内部では全国版発売には反対の声が多かったと言う。ところが、発売されるや爆発的な人気で注文が殺到、プレスが間に合わない程だった。そして歌手が悲願とする百万枚は軽く突破して最終的には320万枚という途方もない大化けを果たした。この数字は「およげたいやきくん」に抜かれるまで、日本のシングルレコード最高記録だった。尚、この時びんからトリオは自主制作300枚であったため、コロンビアとの間には印税契約を結んでいなかった。「女のみち」は、昭和48年日本レコード大賞特別賞を獲得した。大衆の心を「鷲掴み」にする優れた作品であれば、演歌はまだまだ廃(すた)れていない事を示す快挙であった。

びんからトリオは、金が仇となって仲間割れし、「びんから兄弟」として再スタートした。

(16)《星影のワルツ》 歌【千 昌夫】 昭和41年

遠藤実作曲の「星影のワルツ」は、戦後昭和歌謡の名曲である。昭和40年の暮れ、千昌夫のA面「君ひとり」のB面カップリング収録時には、詞も曲も未だ決ってなかった。

ミノルフォン・レコードのディレクターは、作詩同人誌「こけし人形」の中から最優秀作品の白鳥園枝の「つらいなあ」という四行詩を選んで遠藤実作曲を依頼した。

彼は流しの時代に愛用していたギターを取り出し、「別れることは つらいけど …」で始まる四行詩に、しみじみと語り掛ける様な(いた)わりのメロディーを付けていった。

しかし溢れる旋律が次々に湧き出て来て四行詩をオーバーしてしまった。作詞には一家言を持つ遠藤は、そこで「別れに星影のワルツをうたおう」と、頭に閃(ひらめ)いた言葉を書き加え4分休符を置いた。

しかし、それでも尚、浮かんでくる曲想に対して、付ける詞がないので、「冷たい心じゃ ないんだよ…」と続け、更にオクターブ上げて同じ詞を繰り返す曲にして、「今でも好きだ 死ぬ程に」と殺し文句で修めた。

レコードは41年1月に発売されたが反応は無かった。販売網がしっかり確立していない新興会社の弱点であった。遠藤は全国のレコード特約店を軒並みに訪問してキャンペーンを行った。

そんなある日、岡山市のナイトクラブで「星影のワルツ」がリクエストされている事を知って訪ねて見た。ホステス達は、「聴けば聴くほど、胸に響いて来る曲よネ」と恍惚の表情だった。遠藤はホステスのこの反応にA,B面を逆にして再吹き込みを決意、ジャケットのイメージも一新して再発売した。

歌った千昌夫は有線放送に毎日のようにリクエストを繰り返してPRする一方で、ボール紙に曲名を大きく書き込み、真ん中に大きな穴を開けて首を出し、自らが公告塔になって、新宿、渋谷、池袋と東京の盛り場をサンドイッチマン宜しく練り歩いた。

昭和を代表する名曲は世に知られるまでには、これだけの苦労話があったのだ。

40年始めは、未だ高度成長期が続いていて「出稼ぎ労働者」が地方から大挙上京していた。この歌が流れると直(す)ぐに田舎に電話する人が絶えなかったと言う。ホステス同様、心に響く何か訴えるものがあって、田舎に連絡せずにはいられない気分させられる曲だったのかも知れない。



千 昌夫

頑張ろう！ 東北
フレーフレー！
秋工！

◆ 総合フードサービス事業 ◆

テンシャル株式会社

代表取締役 大塚 廉造 (K・32卒)
相談役 大塚 洋夫 (E・35卒)

東京都中央区新川2丁目7番7号クレール八重洲ビル204
TEL(03)3297-1066 FAX(03)3297-1063